★『みなせ』８０号に寄せて

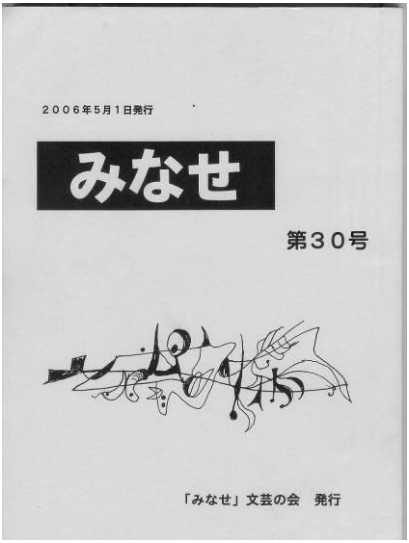
岩佐　晴夫

ボクに文芸同人誌『みなせ』を紹介してくださったのは橋本茂先生で、２００６年２月刊行の２９号をいただいた。それでボクは３０号から寄稿を始めた。先生とはボクが県立瀬谷高校へ転任したときが初対面だった。『みなせ』の創刊が１９９９年２月だから、そのとき誘われていれば、創刊号に寄稿できたのかもしれない。そうなっていたら、寄稿内容も大分違っていたはずで、現在まで続けることが出来なかったかもしれない。今では、３０号から参加させていただいたことはありがたいことだったと感謝している。

寄稿は毎号欠かさず続けているから拙稿は全部で５０編余となるが、内容は大体、随筆と試作の小説が半々で、随筆の大半は『名湯・秘湯で湯浴みする』である。書きためた原稿は残り少なくなっていて、いつまで寄稿できるか、先が見えている感じだ。

この間、たくさんの同人とその作品に出会ったが、中でも常田正元会長と須藤威夫同人の印象が深い。その作品ももちろん優れた出来で面白いが、お二人ともカラオケ大好き人間で、そろって歌が上手だった。合評会の後はいつもカラオケで盛り上がったものだ。

お二人が故人となって久しいが、今もご存命であれば、どんな作品を書き、どんな歌を歌うか、想像するのも楽しいことである。



30 号の表紙